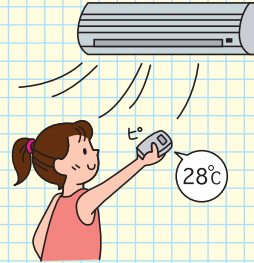


地球温暖化の悪影響を減らすには・・・

ものを作る時や処分する時にも温室効果ガスが発生します。ゴミや使い捨てを減らしましょう。



エアコンは、温度設定が高すぎない、低すぎないようにしましょう。省エネルギーの製品を選びましょう。



バスや電車などの公共交通機関や、自転車を利用しましょう。燃費の良い車を選びましょう。



厳しい温室効果ガス排出削減対策を行っても避けられない影響に備える必要があります。



気象庁は地球温暖化対策に積極的に取り組んでいます

監視

気温や降水量、二酸化炭素濃度や海水温などを長期にわたって観測し、地球温暖化を監視しています。



海洋気象観測船 啓風丸

予測

スーパーコンピューターを使って、将来の気候変化の予測などを行っています。



スーパーコンピューター

情報発信

地球温暖化の対策に必要な情報を国内外に発信しているほか、知識を広めるための講演会を各地で開催しています。



講演会の様子

国際協力

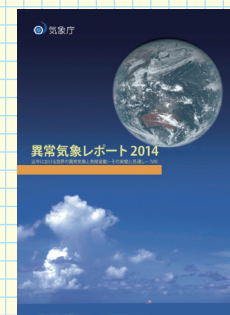
世界の温室効果ガスのデータを管理しているほか、IPCCの評価報告書の作成にも貢献しています。



IPCC 総会の様子

気象庁のホームページに詳しい情報を掲載しています

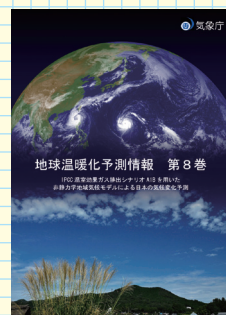
気象庁 温暖化 検索



異常気象レポート



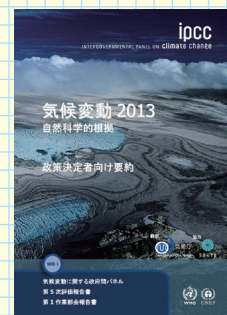
気候変動監視レポート



地球温暖化予測情報



地方版レポート



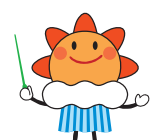
IPCC 第5次評価報告書



気象庁 地球環境・海洋部

東京都千代田区大手町 1-3-4 電話番号：03-3212-8341

URL：http://www.jma.go.jp/jma/index.html

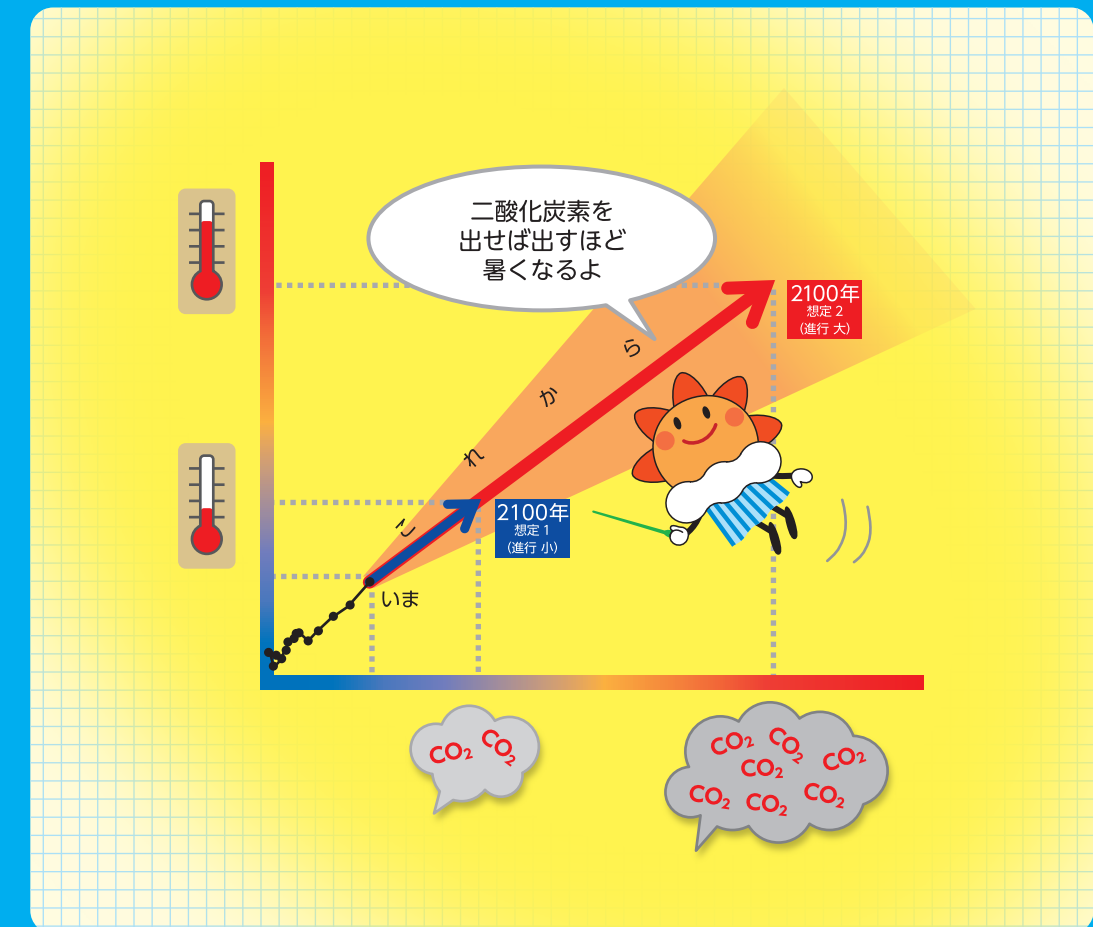


気象庁マスコットキャラクター
はれるん

リサイクル適性(A)

このリーフレットは、印刷用の紙へリサイクルできます。

地球温暖化 「いま」と「これから」



地球温暖化は確実に進んでおり、温室効果ガスを出し続けるとますます進行します。

地球温暖化の悪影響はさまざまな分野におよび、それを減らすには進行を抑える「緩和」と影響に対処する「適応」の両方が必要です。

これらは急速な技術革新と国際協力を必要とし容易な道のりではありませんが、「緩和」を先送りになると、将来の対応がより困難になります。

気象庁
Japan Meteorological Agency

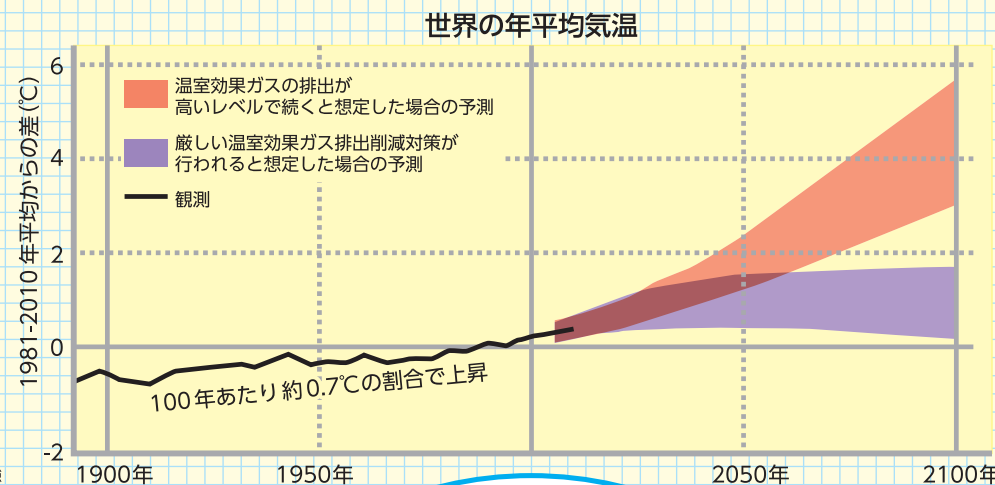
観測

地球温暖化は現実には起きている

地球温暖化のさまざまな証拠が、世界各地で捉えられています。

観測の例	
世界の気温 (19世紀末以降)	高温の観測史上10位までは1998年以降で独占
世界の海面水位 (20世紀初め以降)	100年あたり約17cmの割合で上昇
北極域の海氷面積 (※1) (1979年以降)	10年あたり約90万km ² (※2)の割合で減少

※1 年最小値
※2 日本の面積の2倍強



温室効果ガスの排出は温暖化を更に進める

予測

地球温暖化の進行を抑えるには、温室効果ガスの排出を大幅に削減し、これを保ち続ける必要があります。

図の解説

200年にわたる世界の気温変化です。地球温暖化を抑えるこれまで以上の対策をとらず、温室効果ガスの排出が高いレベルで続く場合、今世紀末の20年間の世界の気温は、現在と比べて2.6~4.8℃上昇すると予測されています。

気温上昇以外にも…

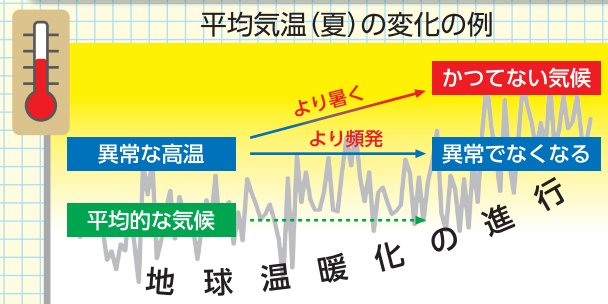
日本では短時間に強く降る雨の頻度が全国的に増えると、気象庁は予測しています。



異常気象

かつてない気候が現れる

地球温暖化の進行により、異常気象の「起こりやすさ」や「強さ」が変化し、これまでにない気候が現れやすくなります。



図の解説

夏の猛暑を例に、地球温暖化による変化の様子を示したものです。猛暑とよばれるような「異常な高温」は、より頻発して異常でなくなります。また、同じような頻度で現れる猛暑は、より暑くなり「かつてない気候」が現れるようになります。

温暖化すると異常気象が増えるの？

どんな影響があるの？

温暖化の原因はなに？

温暖化は急ぎの問題？

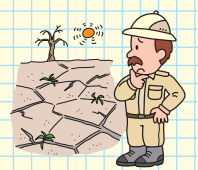


生態系や社会に既に現れている

影響・適応

既に現れている影響や将来に予想される影響へ対処(適応)するための取り組みも始まっています。

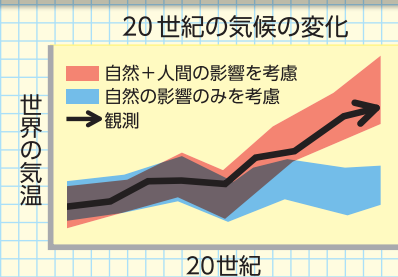
予想される影響と適応策の例		
災害	洪水や干ばつ、海面水位上昇による浸水の増加	治水や効果的な土地利用計画など
生態系	陸域・海洋における種類や生息域の変化	保護や養殖の拡大など
人間社会	熱中症の増加や病気を媒介する動物の生息域の変化、飲み水や食糧の減産	健康警報システムの構築や水資源の管理など



要因

人間活動が引き起こしている

地球温暖化の原因の大半は、石油や石炭の消費による温室効果ガス排出など、人間による影響である可能性が極めて高いと考えられています。



図の解説

20世紀の気候を、人間の影響を考慮する場合としない場合の2種類でシミュレーションした結果です。人間の影響を考慮しないと、観測された気候の変化を再現できません。

温室効果ガスって？

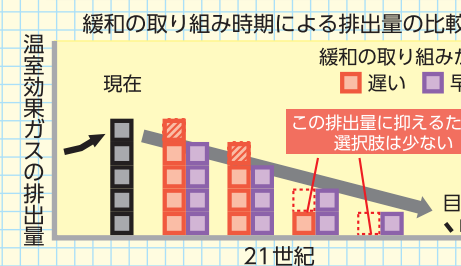
二酸化炭素やメタンなど、地表面からの赤外線を吸収し、再び赤外線を放出して地表面を暖める性質(温室効果)を持つ気体のことです。



すぐに行動する必要がある

緩和

地球温暖化の進行を抑え(緩和)、気温の上昇を産業革命以前と比べて2℃未満に抑える(※3)ためには、温室効果ガスの排出を21世紀末までにほぼゼロにする必要があります。



※3 地球温暖化による極めて大きな悪影響を回避するため、国際的に合意された目標。

図の解説

早い段階で緩和の取り組みを始めた場合とそうでない場合の、温室効果ガスの排出量を比較したものです。二酸化炭素の排出量の合計が気温上昇と比例することから、図の赤枠のように近い将来にたくさん排出すると、21世紀後半に大きく削減する必要があります。

